

2005 年 2 月

このファイルには、最新の製品情報、Adobe Premiere Pro 1.5 マニュアルの更新情報およびトラブルシューティングに関する情報が記載されています。この文書は、プリントしてマニュアルと一緒に保管しておくことをお勧めします。『Adobe Premiere Pro ユーザガイド』の情報は、すべて Adobe Premiere Pro のヘルプメニューから参照することができます。トラブルシューティングや製品の情報については、ユーザガイド、オンラインヘルプ、または Adobe Premiere Pro の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/products/premiere/main.html>) を参照してください。

この文書は、以下の節で構成されています。

- [インストール手順](#)
- [HDV のサポート](#)
 - [HDV について](#)
 - [HDV と DV の比較表](#)
 - [HDV プロジェクトのプリセット](#)
 - [HDV のキャプチャとデバイスコントロール](#)
 - [HDV の再生](#)
 - [HDV 形式でムービーへ書き出し](#)
 - [HDV 形式でテープへ書き出し](#)
- [HDV のサポートに必要なシステム構成](#)
- [サードパーティ製品との互換性](#)
- [既知の問題点](#)
- [関連情報](#)
- [法律上の注意](#)

インストール手順

インストールに関する一般的な注意

Adobe Premiere Pro 1.5.1 を使用するためには、Adobe Premiere Pro 1.5 をインストールする必要があります。Adobe Premiere Pro 1.5 のインストールとライセンス認証について詳しくは、Adobe Premiere Pro 1.5 インストールディスクに収録されている ReadMe ファイルを参照してください。Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータのインストール中は、Adobe Premiere Pro 1.5 を実行しないでください。

Adobe Premiere Pro 1.5.1 に装備されている HDV 関連の新機能を使用するためには、お使いのコンピュータが本文書に記載の [必要システム構成](#) を満たしている必要があります。

Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータのインストール

アドビ システムズ社の Web サイトから Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータをダウンロードすると、インストーラが自動的に起動します。起動しない場合は、ダウンロードした Adobe Premiere Pro 1.5.1 の Adobe Premiere Pro フォルダにある Setup.exe をダブルクリックします。画面の指示に従ってアプリケーションをインストールします。

開始したアップデータ処理は途中でキャンセルしないでください。処理が完了するまでお待ちください。処理が完了する前にキャンセルすると、不完全な状態でセットアップされ、正常に動作しなくなることがあります。

Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータのアンインストール

Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータのインストール後に、アップデータを単独でアンインストールすることはできません。アップデータをアンインストールするには、Adobe Premiere Pro 1.5 を完全にアンインストールする必要があります。Adobe Premiere Pro を正しく完全にアンインストールし、再インストールする必要がある場合は、以下の手順に従ってください。

1. Premiere Pro をアンインストールします。
2. システムを再起動します。
3. C:\Program Files\Adobe に移動して、Premiere Pro 1.5 フォルダを削除します。
4. C:\Documents and Settings\<ログインユーザ名>\Application Data\Adobe に移動して、Premiere Pro フォルダを削除します。
5. ごみ箱を空にします。
6. Premiere Pro 1.5 をインストールします。
7. Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータをインストールします。
8. システムを再起動します。

Adobe Premiere Pro 1.5 のアンインストールについて詳しくは、Adobe Premiere Pro 1.5 インストールディスクに収録されている ReadMe ファイルを参照してください。

HDV カメラドライバのインストール

Adobe Premiere Pro 1.5.1 を起動する前に、適切な HDV カメラドライバがシステムにインストールされているかどうかを確認してください。確認するには、Windows XP Service Pack 2 をインストールして、HDV カメラをコンピュータに接続します。HDV カメラ用の正しいドライバが自動的に検出され、インストールされます。ほとんどの HDV カメラは DV モードをサポートしています。HDV カメラをコンピュータに接続する前に、カメラを HDV モードに切り替えてください。HDV モードにしないと、誤ったドライバがインストールされる場合があります。HDV カメラがコンピュータに接続されていて、ドライバが正しくインストールされている場合は、「Sound Video and Game Controllers (音声/ビデオおよびゲームコントローラ)」の「Device Manager (デバイスマネージャ)」に「AV/C Tape Device driver (AV/C テープドライバ)」が入っています。インストールに関するその他の疑問点や問題については、お使いの HDV カメラのマニュアルを参照してください。

HDV のサポート

Adobe Premiere Pro 1.5.1 では、HDV カメラで撮影した映像を編集することができます。この節では、Adobe Premiere Pro の HDV 関連新機能について説明します。また、Adobe Premiere Pro の通常の DV 編集と HDV 編集において、ワークフローが異なる部分についても説明します。この節に記載されていない機能の使用方法については、Adobe Premiere Pro 本体のユーザガイドを参照してください。

HDV について

HDV とは何なのかという質問は、ビデオ撮影愛好家やプロの技術者からよく出る質問です。HDV と HDTV は混同されがちです。両者の間に関連性はありますが、同じ物ではありません。HDV と HDTV の基本的な定義を以下に示します。

HDTV - 各国の政府や民間組織が採用している規格で、高解像度テレビ放送に求められる解像度、フレームレート、縦横比やその他の標準規格を規定しています。

HDV - ソニー、日本ビクター、シャープ、キャノンの 4 社によって制定された形式で、手頃な価格で高解像度なビデオ機器の開発を実現する標準記録フォーマットを提供します。

HDV フォーマットについて HDV 形式は、簡単に言い表すと、MPEG2 圧縮を利用して高解像度ビデオ映像を従来の DV カセットテープに記録できるようにする映像記録規格です。

MPEG2 は HDV ビデオの流通フォーマットとして非常に優れていますが、編集フォーマットとしては効率的ではありません。MPEG2 フォーマットのままで HDV を編集する場合、作業が煩雑になります。そこで、アドビ システムズ社では HDV データを Cineform Intermediate コーデックでキャプチャして編集するという方法を採用しました。Cineform Intermediate は、Wavelet ベースの極めて高品質な圧縮コーデックです。

HDV と DV の比較表

HDV と DV の各ビデオフォーマットの違いと、これらのフォーマットを Adobe Premiere Pro で扱う際のワークフローの違いを以下に簡単に示します。

機能	HDV	DV
フォーマット	1280 x 720p30 1440 x 1080i30 ¹ 1440 x 1080i25 ¹	720 x 480i30 ² 720 x 576i25 ²
圧縮 (テープ)	MPEG-2	DV
ビットレート (テープ)	20 Mb/秒、固定 (720p) 25 Mb/秒、固定 (1080i)	25 Mb/秒、固定
圧縮 (ディスク)	CineForm Intermediate®	DV
ビットレート (ディスク)	60 ~ 120 Mb/秒、可変	25 Mb/秒、固定
キャプチャ	MPEG2 フッテージをテープからキャプチャし、CineForm Intermediate® AVI ファイルに変換してディスクに保存する	DV フッテージをテープからキャプチャし、DV AVI ファイルとしてディスクに保存する
テープへ書き出し	MPEG をエンコードし、書き出す	DV をエンコードし、書き出す
外部モニタのサポート	デュアル出力グラフィックカード ³	サードパーティ製 DV ハードウェア

¹ アナモルフィックフォーマット ² アナモルフィックおよび非アナモルフィックフォーマット ³ 本文書の「[サードパーティ製品との互換性](#)」に記載されている、アドビ システムズ社動作確認済みのグラフィックカードの一覧を参照

HDV プロジェクトのプリセット

Adobe Premiere Pro 1.5.1 を起動して、「新規プロジェクト」ボタンをクリックします。「使用可能なプリセット」のリストに新しい HDV フォルダが表示されます。このフォルダには、HDV

1080i - 25.00、HDV 1080i - 29.97、HDV 720p - 29.97 という 3 つのプリセットが用意されています。HDV 1080i ビデオはアナモルフィックフォーマットであり、ビデオ映像は解像度 1440 x 1080 で保存されますが、表示は解像度 1920 x 1080 で行われます。HDV 1080i ビデオをサポートするために、Adobe Premiere Pro には HD アナモルフィック 1080 (1.333) のピクセル縦横比が追加されています。

新しい HDV プロジェクトを開始するには、カメラの HDV モードに適合する解像度とフレームレートを持つプリセットを選択します。

例

日本ビクター JY-HD10U カメラの場合は、「HDV - 720p - 29.97」プリセットを選択します。

ソニー HDR-FX1 カメラの場合は、「HDV - 1080i - 29.97」プリセットを選択します。

ソニー HDR-FX1E カメラの場合は、「HDV - 1080i - 25.00」プリセットを選択します。

HDV のキャプチャとデバイスコントロール

HDV カメラからキャプチャする前に、以下の点を確認してください。

- 「デバイスコントロール」が「HDV デバイスコントロール」に設定されている
- プロジェクト設定の「キャプチャ形式」が「HDV キャプチャ」に設定されている
- HDV カメラドライバが正しくインストールされている（インストール手順については、このガイドの最初の節を参照してください）
- HDV カメラの電源が入っており、FireWire でコンピュータに接続され、HDV カメラのモードが Adobe Premiere Pro HDV のプロジェクト設定に対応している
- テープにタイムコードブレイクがある場合、ブレイクの位置でタイムコードがリセットされるので、バッチキャプチャ処理でエラーが発生する可能性があります。この問題を避けるため、テープをバッチキャプチャで使用する場合は、事前にテープをストライピングしておくことをお勧めします。
- 事前にテープを正しくストライピングするには、HDV 形式のデバイスで、カメラモードで録画してください。VTR モードで録画すると、テープが正しくストライピングされず、ブランク部分が認識されません。

HDV のキャプチャ処理は、DV のキャプチャ処理とは若干異なります。HDV デバイスからキャプチャする場合、Adobe Premiere Pro は HDV デバイスのネイティブの MPEG2 データを CineForm HDV 形式 AVI ファイルにトランスコードします。このトランスコード処理はリアルタイムではありませんが、バックグラウンドで行われます。処理能力が高いシステムでは、このバックグラウンド処理はほとんどリアルタイムで実行されます。必要システム要件とほぼ同じスペックのシステムでは、エンコーディングにかかる時間が 30~50% 長くなります。キャプチャを停止したときにトランスコードがまだ完了していない場合は、「Waiting for Transcode (トランスコード処理待ち)」ウィンドウが表示されます。トランスコードが完了すると、「Waiting for Transcode (トランスコード処理待ち)」ウィンドウが閉じて、キャプチャされたクリップがプロジェクトビンに表示されます。トランスコードが完了する前にトランスコード処理を中止すると、キャプチャされたクリップでその時点までにトランスコードされた部分がビンに追加されます。

HDV キャプチャでは、ドロップフレームでのキャプチャの中止、ビデオとオーディオの別々のファイルへのキャプチャ、静止画フレームのキャプチャ、キャプチャ中のビデオ/オーディオのプレビューの機能はサポートされていません。

HDV デバイスコントロールでは、次のシーンに進む、前のシーンに戻る、スロー再生、リバーズスロー再生、シャトルスロー再生、シャトルリバーズスロー再生の機能はサポートされていません。

詳細については、「HDV のキャプチャとデバイスコントロールの既知の問題点」と「HDV カメラの既知の問題点」の節を参照してください。

HDV の再生

HDV 編集セッションを開始する前に、HDV 再生設定を確認してください。以下に、各設定とその機能を簡単に示します。

- 再生設定
 - YUV 再生を有効にする（初期設定：有効） - YUV から RGB への変換を有効にして、CPU によるソフトウェア変換ではなく、グラフィックカードの GPU によるハードウェアアクセラレーションをビデオ表示に適用します。通常は、この機能を有効にすることで再生パフォーマンスが向上します。
- デスクトップ表示設定
 - GDI を使用 - このモードは、DirectX モードでうまく再生できない場合を除き、使用しないでください。GDI モードは、ビデオ再生の「セーフモード」とよく似ています。このモードを使用すると、再生パフォーマンスは低下しますが、再生に関する問題を解決しやすくなります。
 - DirectX を使用（初期設定） - このモードでは、グラフィックカードの DirectX 機能を使用してビデオを再生します。この設定を選択すると、最高の再生パフォーマンスが得られます。
 - 外部モニタを有効にする - 「DirectX を使用」を選択したときにこのモードを有効にすると、デュアル出力グラフィックカードが正しく設定されている場合にビデオが 2 台目のモニタに出力されます。詳細については、後述する「[サードパーティ製品との互換性](#)」を参照してください。
 - 再生中にビデオが乱れる可能性を低くするには、ディスプレイモニタの画面のリフレッシュレートをタイムラインの fps の倍数に近くなるように設定します。例えば、HDV 1080i- 29.97 プロジェクトの場合は、リフレッシュレートを 60 ヘルツに設定します。
- 外部モニタオプション
 - ビデオスケールモード（外部モニタサポートが有効な場合のみ使用）
 - 1:1（初期設定）
 - 縦横比
 - フルスキャン
- テープへ書き出し時のレンダリング設定
 - トランスコードファイルを保存（初期設定：有効） - この設定を使用すると、「テープへ書き出し」機能で作成した MPEG2 トランスポートストリームファイルを保存できます。後述する「HDV 形式でテープへ書き出し」を参照してください。
 - Speed vs. Quality（速度／画質） - この設定を使用すると、テープに書き出す前に MPEG2 トランスポートストリームの品質を選択できます。品質を高くすると、エンコーディング処理にかかる時間が長くなります。

HDV 再生設定の設定が完了したら、HDV 編集作業を開始します。HDV プロジェクトの編集は、DV プロジェクトの編集とほとんど同じです。ただし、次の点が大きく異なります。

- HDV プロジェクトは、再生中にビデオを FireWire で外部モニタに送信しません。Adobe Premiere Pro 1.5.1 は、HDV の編集にデジタル中間コーデックを使用します。このデータは HDV デバイスでサポートされていないので、再生中には表示されません。

- HDV では高い解像度と帯域幅が必要になるので、DV モードでリアルタイムまたはリアルタイムに近い速度で再生されるエフェクトやスコープは、HDV モードでは同じパフォーマンスで再生されない場合があります。

CineForm HDV AVI ファイルをリアルタイムで再生するにはファイルの解像度、タイムベースが編集集中のプロジェクトと同じ設定である必要があります。他のすべてのファイルは、非リアルタイムで再生されます。プロジェクトビンウィンドウまたはソースモニタウィンドウで表示される非リアルタイムクリップは、外部モニタには表示されません（外部モニタが有効な場合）。

再生時のパフォーマンスが向上されるように、Adobe Premiere Pro 1.5.1 は、Adobe Premiere Pro アプリケーションインターフェイスでの表示に低解像度のオーバーレイを使用します。この最適化により、一部のフィルタ（ブラシストロークなど）の表示が、プレビュー時と最終的なレンダリングされた結果が異なることがあります。フィルタをかけたクリップの一部をレンダリングして、最終的な画像が希望するとおりの結果になったかどうかを確認することをお勧めします。

モニタのズームオプション、再生時の FireWire によるビデオ出力は、HDV 再生ではサポートされません。

詳細については、「HDV の再生の既知の問題点」を参照してください。

HDV 形式でムービーへ書き出し

HDV 形式でムービーに書き出すには、ムービー書き出し設定ウィンドウの「一般」タブで、ファイルの種類として「CineForm HDV AVI」を選択してください。「ビデオ」タブの圧縮形式オプションから、エンコードする HDV ビデオ形式を選択します。5 つの HDV ビデオ形式から選択できますが、576p および 480p 形式はアドビ システムズ社での動作確認がまだ完了していません。

書き出しを開始する前に、選択したピクセル縦横比が HDV ビデオ形式に対応していることを確認してください。1080i 25/29.97 の場合は「HD アナモルフィック 1080 (1.333)」、720p 29.97 の場合は「正方形ピクセル (1.0)」、480p 59.94 の場合は「D1/DV NTSC ワイドスクリーン 16:9 (1.2)」、576p 50.00 の場合は「D1/DV PAL ワイドスクリーン 16:9 (1.422)」を使用します。

「HDV 形式でムービーへ書き出し」機能では、プロジェクトの埋め込みオプション、品質の設定、データレートの設定、キーフレームの設定はサポートされていません。

詳細については、「HDV 形式でのムービーへの書き出しの既知の問題点」を参照してください。

HDV 形式でテープへ書き出し

HDV カメラにクリップを書き出す前に、以下の点を確認してください。

- 「デバイスコントロール」が「HDV デバイスコントロール」に設定されている
- HDV デバイスドライバが正しくインストールされている（詳細については、このガイドの最初にある「インストール手順」を参照してください）
- HDV デバイスの電源が入っており、FireWire でコンピュータに接続され、HDV デバイスのモードが Adobe Premiere Pro HDV のプロジェクト設定に対応している
- テープが HDV デバイスに入っており、テープが「書き込み禁止」に設定されていない

HDV デバイスを正しく設定すると、Premiere Pro で「テープへ書き出し」を選択できます。

「HDV 形式でテープへ書き出し」ウィンドウは、「DV 形式でテープへ書き出し」ウィンドウをモデルとしていますが、いくつか異なる点があります。Adobe Premiere Pro は、HDV をネイティブ

の HDV MPEG2 ではなく CineForm Intermediate コーデックで編集するので、HDV デバイス上のテープに書き出すには、タイムラインを HDV MPEG2 トランスポートストリームにトランスコードする必要があります。HDV デバイスは部分的なフレームを含む Long-GOP MPEG2 形式を使用しているため、フレームアキュレートなテープへの書き出し、タイムコード指定、またはインサート編集には対応していません。書き出し先は HDV デバイスの現在のタイムコードの位置に限定されます。

- 「レコーダをアクティブ」をオンにしてレコーダとなる HDV デバイスを有効にし、「レンダリングして書き出し」ボタンをクリックして MPEG2 トランスコード処理を開始します。
- 「HDV トランスコードステータス」という新しいウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、タイムラインを HDV テープ録画用の MPEG2 トランスポートストリームファイルに変換するトランスコードステータスを確認できます。トランスコード処理中は、トランスコードされているフレームが Premiere Pro プログラムのモニタウィンドウに表示されます。

重要：このウィンドウをキャンセルするか閉じると、テープへの書き出し処理がキャンセルされます。

- トランスコード処理が完了すると、「名前をつけて保存」ウィンドウが開き、必要に応じてファイルを保存できます（プロジェクト再生設定で「トランスコードファイルを保存」設定を無効にしている場合、この「別名で保存」ウィンドウは表示されません）。「キャンセル」をクリックすると、ファイルの保存はキャンセルされますが、テープへの書き出しはキャンセルされません。
- ファイルを保存するか、保存をキャンセルすると、タイムラインが録画デバイスにリアルタイムで書き出されます。実際の書き出し時には、Premiere Pro プログラムのモニタウィンドウは黒い画面になります。

比較的長いクリップをテープに書き出す場合は、事前に HDV デバイスが正しく設定され、録画の準備ができていることを確認することが重要です。設定を確認するには、HDV 形式でテープへ書き出しウィンドウの「レコーダをアクティブ」をオフにした状態で、短いクリップをテープに書き出すことをお勧めします。こうすることで、実際にはテープに録画せずに HDV デバイスの設定を確認できます。HDV デバイスがテープへの書き出しを実行できるように正しく設定されていないと、MPEG2 トランスコード処理を何度も繰り返すこととなります。

テープに書き出す場合は、以下の HDV デバイスに特有の問題を把握しておく必要があります。

- 現行の JVC/VICTOR HDV デバイスは、FireWire で送信された MPEG2 データが物理的に検出されるまで録画を開始しません。このため、対象となるビデオがテープにすべて録画されるように、タイムラインの先頭に 5～10 秒の空白部分を挿入することをお勧めします。
- 現行の Sony HDV デバイスでは、録画を開始する前に約 2 秒間の録画スタンバイ状態があります。この 2 秒間にタイムラインが開始され、MPEG2 トランスポートストリームがテープに書き出されるので、ビデオの最初の 2 秒間はテープに録画されません。この問題を避けるには、タイムラインの先頭に 2～4 秒の空白部分を挿入し、ムービー開始オフセットを 200～250 (1/4 フレーム単位) に増やします。

「HDV 形式でテープへ書き出し」機能では、シーケンス編成／インサート編集、プリロール、開始／終了タイムコード、以前保存された MPEG2 トランスポートストリームの書き出しはサポートされていません。

詳細については、「HDV 形式でのテープへの書き出しの既知の問題点」と「HDV カメラの既知の問題点」を参照してください。

既知の問題点

HDV のキャプチャとデバイスコントロールの既知の問題点

- Adobe Premiere Pro 1.5.1 は、DV、DVCAM、および HDV 素材のキャプチャと編集をサポートしています。
- テープからキャプチャする場合は、シーン検出機能をオンにしてください。テープから 1 つの長いファイルをキャプチャすると、ビデオとオーディオの同期が失われることがあります。シーン検出機能により、クリップが個別のシーンに分割され、同期に関するあらゆる問題を防止できます。
- キャプチャプレビューウィンドウをすばやく動かすと、ウィンドウで表示エラーが発生して正常に表示されなくなる場合があります。表示を正常に戻すには、カメラと Adobe Premiere Pro を再起動する必要があります。
- キャプチャしたファイルの最初の 15 フレームに緑色の線が入る場合があります。
- テープ上の MPEG2 データのエラー、または FireWire による MPEG2 データの転送エラーにより、キャプチャしたクリップにアーティファクトが見られる場合があります。この問題は Adobe Premiere Pro では修正できないので、クリップを再キャプチャする必要があります。ただし、テープにエラーがある場合は、ストリームでも常にエラーが発生します。
- キャプチャしたクリップのタイムコードが不正確な場合があります。現時点では、最大 2 フレームまでオフにできます。
- バッチおよびイン/アウトキャプチャ - MPEG2 の性質上、キャプチャは常に指定したポイントの前にある最初の 1 フレームから開始されます。このため、指定したポイントの前に余分なフレームがキャプチャされ、保存されます。
- Adobe Premiere Pro のプロジェクトメニューから任意のプロジェクト設定を開こうとすると、キャプチャが停止して、キャプチャのトランスコードを継続できなくなります。ただし、停止するまでにトランスコードされたファイルはプロジェクトビンに追加されるので、作業内容は失われません。
- テープ再生時にキャプチャプレビューウィンドウに表示されるプレビューは、リアルタイムに近いパフォーマンスで表示されます。再生に追従できるように、プレビュー中は定期的な間隔でフレームがドロップ（コマ落ち）されます。キャプチャ処理がリソースを優先的に使用できるように、このバージョンではキャプチャ時のプレビューは無効になっています。
- HDV デバイスで再生速度を変更すると（シャトル機能など）、MPEG2 デコーディングを新しい速度に変更するときに、ライブキャプチャプレビューでアーティファクトが発生する場合があります。
- JVC/Victor デバイスでのバッチリストのキャプチャが失敗することがあります。JVC/Victor デバイスで、Firewire ポート経由でビデオを再生できないことがあります。この問題は、JVC/Victor デバイスで MPEG ストリームが正常にデコードされないことが原因で発生します。この場合、JVC/Victor デバイスの液晶画面にビデオが表示されず、青い画面が表示されます。この問題を解決するには、キャプチャをやり直します。
- 事前にストライピングされていないテープからビデオをキャプチャした場合、最後のシーンでキャプチャが終了しないことがあります。この問題は、タイムコードのトラッキングが失われたことによって発生します。キャプチャは手動で終了でき、ファイルは問題なく使用できます。事前にストライピングすることで、この問題を防止できます。
- ビデオをキャプチャする前に、テープの先頭に少なくとも 30 秒の空白部分を挿入してください。これにより、最初のシーンの先頭でプリロール/カメラシークの問題が発生するのを防止できます。
- JVC/Victor デバイスからキャプチャした場合、MPEG-2 GOP デコードエラーにより、タイムコードが最大 15 フレームずれることがあります。同じ素材を再キャプチャするとずれが少なくなるため、対処方法として再キャプチャすることをお勧めします。
- HDV デバイスのテープには、1 つの形式だけを録画することをお勧めします。HDV のキャプチャ中、キャプチャ対象素材を HDV から DV または DVCAM（ソニー HDR-Z1）に変更すると、キャプチャが失敗します。
- カメラからライブでキャプチャする場合、録画ボタンを押してから実際に録画が開始されるまで 10 秒の遅れが生じることがあります。

- オーディオとビデオのスクラッチディスクは、同じにしてください。これらが異なっていると、編集用の Digital Intermediate CineForm ファイルを作成するときにエラーが発生します。

HDV カメラの既知の問題点

Sony HDR-FX1 および HDR-FX1E

- FireWire 接続による HDV 720p でのキャプチャおよびテープへの書き出しは、Sony HDV FX1 および HDR-FX1E ビデオカメラではサポートされていません。
- Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式により、「次のフレーム」または「Jog Forward (ジョグで進める)」を実行しても、キャプチャプレビュー中にキャプチャモニタウィンドウが更新されません。
- Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式により、「前のフレーム」または「Jog Backwards (ジョグで戻す)」を実行すると、複数のフレーム単位で戻る処理が行われます。キャプチャプレビュー中にキャプチャモニタウィンドウは更新されますが、アーティファクトが発生する場合があります。
- これらのカメラでは、「インポイントへ移動」または「アウトポイントへ移動」はフレームアキュレートではありません。これは、ビデオビットストリームの範囲外で行われるタイムコードの処理によるものです。
- カメラの LCD/アナログビデオ出力は、FireWire で実際に出力され Premiere Pro のキャプチャウィンドウで表示されているフレームから、6 または 7 フレーム以上遅れる場合があります。これは Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式によるものです。

Sony HDR-Z1U および HDR-Z1E

- Sony HDR-Z1 カメラにはノンドロップフレーム録画オプションがありますが、Adobe Premiere Pro 1.5.1 にはこのモード用の設定済みのプロジェクトプリセットはありません。編集でノンドロップフレームモードをサポートするには、プロジェクト/環境設定/一般を選択します。これによりプロジェクト設定ダイアログボックスが表示されます。「表示形式」プルダウンメニューから、ビデオ形式に一致するノンドロップフレームタイムコードを選択します。
- ノンドロップフレームビデオは、Adobe Premiere Pro のキャプチャウィンドウでは引き続きドロップフレームモードでキャプチャされます。ファイルのプロパティには、ドロップフレームと表示されます。

JVC/Victor JY-HD10

- このモデルは 1080i をサポートしていません。720p でのキャプチャおよびテープへの書き出しのみをサポートしています。
- Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式により、「次のフレーム」または「Jog Forward (ジョグで進める)」を実行しても、キャプチャプレビュー中にキャプチャモニタウィンドウが更新されません。
- Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式により、「前のフレーム」または「Jog Backwards (ジョグで戻す)」を実行しても、キャプチャプレビュー中にキャプチャモニタウィンドウが更新されません。
- カメラの LCD/アナログビデオ出力は、FireWire で実際に出力され Premiere Pro のキャプチャウィンドウで表示されているフレームから、8 フレーム以上遅れる場合があります。これは Long GOP MPEG-2 データの性質とカメラのデコード方式によるものです。
- JVC/Victor HDV 形式のデバイスからキャプチャしたビデオの場合、スクラップ時に A/V の同期が 3 フレームずれることがあります。オーディオ特定の編集をする場合には、このオフセットを補正しなければならないことがあります。

HDV の再生の既知の問題点

- システムが Hyper-Threaded プロセッサを搭載していない場合、または Hyper-Threading に対応していない場合、一部の映像を再生するときにドロップフレームなどの再生パフォーマンスの低下が見られる場合があります。
- 一部のグラフィックカードでは、Adobe Premiere Pro 1.5.1 と DirectX Overlay Surface を使用する他のアプリケーションを切り替えると、外部モニタ出力が乱れるか、出力されなくなる場合があります。
- 一部の外部モニタとグラフィックカードでは、再生時にビデオの表示が頻繁に乱れる場合があります。推奨される外部モニタとグラフィックカードの設定については、この「お読みください」の説明を参照してください。再生中にビデオが乱れる可能性を低くするには、ディスプレイモニタの「画面のリフレッシュレート」をタイムラインの fps の倍数に近くなるように設定します。例えば、HDV 1080i- 29.97 プロジェクトの場合は、リフレッシュレートを 60 ヘルツに設定します。
- 外部モニタが有効になっている場合、Adobe Premiere Pro 1.5.1 の画面内にある Adobe Premiere Pro 1.5.1 の再生ウィンドウ（ビン、ソース、プログラムモニタウィンドウ）の一部がプライマリモニタから外れると、Adobe Premiere Pro 1.5.1 の再生ウィンドウにビデオではなく黒色の画面が表示されます。ただし、外部モニタでは正常にビデオが表示されます。
- グラフィックカードによっては、外部モニタをサポートしていないものもあります。外部モニタをサポートしている推奨グラフィックカードについては、この「お読みください」の説明を参照してください。
- 一部のグラフィックカードでは、セーフマージンを正しく設定できない場合があります。
- 一部のオーディオカードには、独自の ASIO ドライバが同梱されています。再生に関する問題が発生した場合は、オーディオカードの ASIO ドライバに切り替えて問題が解決されるかどうか確認してください。
- 2 台以上のモニタを持つシステムでの Adobe Premiere Pro 1.5.1 による HDV ビデオの再生は、今回のリリースではサポートされません。
- 外部モニタがサポートされているときに、スクラブからビデオ再生に移行すると、ビデオの輝度がわずかにずれる場合があります。このずれは NVIDIA グラフィックカードでは特に顕著です。
- カスタム設定を使用して新しいプロジェクトを作成すると、HDV プリセットの初期設定が「ビデオレンダリング」タブの圧縮形式フィールドに適用されません。
- キャプチャウィンドウを開いているときに、グラフィックカードの外部モニタ出力を有効にしないでください。有効にすると、外部出力が正常に機能しないことがあります。キャプチャウィンドウが閉じているときに有効にすれば、正常に機能します。

HDV の書き出しの既知の問題点

- Adobe Premiere Pro 1.5.1 から HDV プロジェクトを高品質 DVD 配信用に書き出す場合は、プリエンコードのサイズ調整タスクを有効にせずに MPEG-2 DVD プリセットを使用することをお勧めします。エンコード処理時の自動サイズ調整機能の品質は高く、DVD 用の高画質を得られます。サイズ調整をプリエンコードタスクとして有効にする必要はありません。有効にするとバンディングやアーティファクトが発生することがあります。

HDV 形式でのムービーへの書き出しの既知の問題点

- HDV プロジェクトの設定にかかわらず、ムービーへの書き出しのビデオ圧縮形式のデフォルトは常に「CineForm HDV 1080i 29.97」です。前回の設定内容は保存されません。ムービーへの書き出し設定は、書き出し処理を行うたびに確認してください。
- ピクセル縦横比がビデオ圧縮形式に対応していることを確認してください。その他の HDV 形式のピクセル縦横比については「HDV 形式でムービーへ書き出し」を参照してください。

- HDV MPEG2 トランスポートストリームは、「ムービーへ書き出し」では書き出せません。

HDV 形式でのテープへの書き出しの既知の問題点

- HDV プロジェクトの形式が HDV デバイスでサポートされている形式と一致しない場合、「テープへ書き出し」コマンドの検出処理は実行されませんが、テープへの書き出しは強制的に実行されます。この結果、HDV デバイスの LCD にエラーが表示されます。「テープへ書き出し」を行う場合は、プロジェクト形式とカメラの設定を一致させてください。
- JVC/Victor カメラおよびデッキでは、IEEE1339 による MPEG2 データを検出しないと録画を開始しません。このため、対象となるビデオがテープにすべて録画されるように、タイムラインの先頭に 15 秒の空白部分を挿入することをお勧めします。
- Sony HDV デバイスでは、録画を開始する前に約 2 秒間の録画スタンバイ状態があります。このため、タイムラインの先頭に 2~4 秒の空白部分を挿入し、ムービー開始オフセットを 200~250 (1/4 フレーム単位) に増やします。
- テープに書き出す場合は、HDV デバイスコントロールモジュールと HDV 再生モジュールのみを使用してください。別のデバイスコントロールモジュールや再生モジュールを使用すると、予測していない動作や意図していない動作を引き起こす場合があります。
- 「テープへ書き出し」を呼び出す前に、タイムラインの再生を手動で停止する必要があります。
- 720p メディアの Sony HDV デバイスへの書き出しは、Sony の現行モデルではサポートされていません。
- テープに録画しているときにテープへの書き出しをキャンセルし、レンダリングおよび録画処理を再開しようとする、カメラが準備できていない状態になり、「レンダリングして書き出し」ボタンが使用できなくなることがあります。カメラの電源を入れ直すか、Adobe Premiere Pro 1.5.1 を再起動することで、「レンダリングして書き出し」ボタンを使用できるようになります。

既知の制限事項、トラブルシューティング、およびヒントの最新情報については、Adobe Premiere Pro サポートページ (www.adobe.co.jp/support/products/premiere.html) を参照してください。

HDV のサポートに必要なシステム構成

- Intel® Pentium® 4、3GHz 533 FSB Hyper-Threaded (Dual Pentium 4、3.2 GHz 800 FSB Hyper-Threaded または Dual Intel® Xeon® 3.6 GHz を推奨)
- Microsoft® Windows® XP Professional または Home Edition (Service Pack 2) 日本語版
- 1 GB の 333Mhz DDR RAM (1 GB のデュアルチャンネル構成 400Mhz DDR RAM を推奨)
- インストール用に、800 MB の空き容量のあるハードディスク
- Microsoft DirectX 互換サウンドカード (ASIO 互換サウンドカードを推奨)
- 8x AGP または PCI-Express グラフィックカードと 128 MB DDR RAM (256 MB DDR RAM を推奨)
- HDV のキャプチャおよび書き出しを行う場合：OHCI 互換 IEEE 1394 インターフェイスと専用の大容量 7200 RPM UDMA 133 IDE/SATA、または最大 20 MB/s のデータレートに対応する SCSI ハードディスク (最高のパフォーマンスを得るには、2 台以上のドライブによる SATA または SCSI RAID0 アレイを使用してください)

Adobe Premiere Pro 1.5.1 は、Intel® プロセッサ搭載システム用に最適化されています。AMD プロセッサ搭載システムで Adobe Premiere Pro 1.5.1 を実行することもできますが、Dual Opteron CPU 搭載プラットフォームを使用することを強くお勧めします。

システムパフォーマンスの強化

以下は、Adobe Premiere Pro で HDV を編集する際のパフォーマンスを強化するための推奨事項です。

- パフォーマンスを強化するために、スクリーンセーバーやデスクトップアラートなどのバックグラウンドプログラムを閉じます。ただし、アンチウイルスプログラムを無効にするとシステムが危険にさらされる可能性があります。
- システムの CPU を高速にすると、キャプチャおよびテープへの書き出し時のトランスコードや編集時の再生が高速になります。ただし、オーバークロックの適用や定格値を超える CPU 速度の設定は避けてください。
- RAM 構成をデュアルチャンネルにするとパフォーマンスが強化されるので、この設定にすることを強くお勧めします。
- すべてのビデオドライブを NTFS でフォーマットし、定期的にデフラグを実行することをお勧めします。ビデオドライブが 1 台のみの場合は、ドライバを SLAVE ではなく MASTER に設定してください。ハードドライブで想定されているパフォーマンスが得られない場合は、ベンチマークテストを実行して問題を特定してください。

システム要件に関する最新情報については、

<http://www.adobe.co.jp/products/premiere/systemreqs.html> を参照してください。

サードパーティ製品との互換性

サードパーティ製ソフトウェアについて

Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータ版は、CineForm Intermediate DirectShow Codec の場合のみ提供されます。CineForm Intermediate Video for Windows Codec では提供されません。これは、エンドユーザが CineForm HDV 形式 AVI ファイルを Adobe After Effects などの他のアプリケーションに読み込めないようにするための措置です。

HDV キャプチャカード

Adobe Premiere Pro 1.5.1 アップデータ版は、標準的なサードパーティ製 OHCI 対応 IEEE 1394 ホストコントローラ（一般的には DV、iLink、または FireWire キャプチャカードと呼ばれています）による HDV のキャプチャをサポートしています。使用している PC に DV コネクタが内蔵されていない場合は、サードパーティ製の IEEE 1394 カードを追加できます。

HDV 外部モニタのサポート

HDV プロジェクトのタイムラインは、サポートされている多くのグラフィックカードを使用して外部モニタでプレビューできます。この場合、グラフィックカードがセカンドモニタと DirectX オーバーレイをサポートしている必要があります。以下の表は、アドビ システムズ社動作確認済みのデュアル出力対応のさまざまなグラフィックカードとの互換性を示したものです。

カード	種類	デュアルヘッド	ビデオ出力	ビデオ再生能力	備考
ATI Radeon 9800 Pro	AGP	対応	DVI/VGA	720p および 1080i に対応	推奨

ATI Radeon 9700 Pro 128MB	AGP	対応	DVI/VGA/カスタムビデオコネクタ	DVI/VGA による 720p および 1080i に対応。カスタムビデオコネクタの場合、画質が低下します。	推奨しません
ASUS (ATI) - Extreme AX300 128Mb	PCI-Express	非対応	DVI/VGA/Sビデオ	DVI/VGA によるビデオ再生に対応。S-Video では画質が低下します。デュアルヘッドを使用しない場合、アプリケーションとビデオを切り替える必要があります。	推奨しません
ATI - Radeon 9550	AGP	対応	DVI/VGA	720p および 1080i に対応	推奨
Gigabyte Radeon 9250VGA および S-video 出力端子	AGP	非対応	DVI/VGA/Sビデオ	720p および 1080i に対応。デュアルヘッドを使用しない場合、アプリケーションとビデオを切り替える必要があります。	推奨しません
Nvidia 5700 Ultra	AGP	非対応	DVI/アナログ	720p および 1080i に最適。一部に映像の途切れあり	使用可
Nvidia 6800 Ultra	AGP	対応	デュアル DVI	Nvidia 5700 と同等	使用可
Nvidia Quadro 4 980XGL	AGP	対応	デュアル DVI	Nvidia 5700 と同等	使用可
Nvidia Quadro FX 540	PCI-Express	対応	デュアル DVI、カスタムビデオ出力	DVI による 720p および 1080i に対応。カスタムビデオコネクタの場合、画質が低下します。	推奨

すべてのカードで、液晶モニターよりも CRT モニターの方が再生パフォーマンスが優れている傾向が認められました。モニターのリフレッシュレートを、Adobe Premiere Pro プロジェクトで使用するビデオフレームレートの倍数に設定することで再生パフォーマンスが向上しました。他のハードウェアと同様、上記のグラフィックカードのパフォーマンスは、メーカーが提供する新しいドライバによって変わることがあります。グラフィックカードの互換性に関する最新情報については、Adobe Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) の「サポート」を確認してください。新しいハードウェアや他のメーカーのカードで互換性のあるものも存在しますが、このソフトウェアアップデートのリリース時にその動作は確認されていません。

以下に、標準的なグラフィックカードに対する外部モニタの設定を示します。メーカーが新しいドライバを公開した場合、この情報は無効になる場合があります。使用しているグラフィックカードの最新のドライバとマニュアルをダウンロードしてください。

- ATI RADEON

1. Windows の画面のプロパティで、「設定」タブをクリックします。
2. 「ディスプレイ」ドロップダウンメニューからセカンドモニタを選択します。
3. 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をオフにします。
4. 「ディスプレイ」ドロップダウンメニューからプライマリモニタを選択します。

5. 「詳細設定」ボタンをクリックして ATI Radeon の設定を表示します。
 6. 「Overlay (オーバーレイ)」タブをクリックします。
 7. 「Clone Mode Options (クローンモードのオプション)」をクリックします。
 8. 「Overlay Display Mode (オーバーレイディスプレイモード)」で、「Theatre Mode (シアターモード)」を選択します。
 9. 「Set Video Aspect Ratio To (ビデオの縦横比)」で、「Same As Source Video (ソースビデオと同じにする)」を選択します。
 10. 「Display Device Aspect Ratio (ディスプレイデバイスの縦横比)」で、表示するデバイスの縦横比を選択します。
 11. 「Display (ディスプレイ)」をクリックします。
 12. 2 つのモニタがアクティブになり、プライマリまたはメインのモニタとして正常に指定されていることを確認します。
- nVidia GeForce
 1. Windows の画面のプロパティで、「設定」タブをクリックします。
 2. 「ディスプレイ」ドロップダウンメニューからセカンドモニタを選択します。
 3. 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をオンにします。
 4. 「詳細設定」ボタンをクリックして nVidia カードの設定を表示します。
 5. nVidia ロゴのタブをクリックし、モデル名/カードの番号をクリックします。
 6. ポップアウトするサイドメニューで、「Full Screen Video (フルスクリーンビデオ)」を選択します。
 7. 「Full Screen Device (フルスクリーンデバイス)」ドロップダウンメニューで、「Auto-Select (自動選択)」を選択します。
 8. 設定を適用します。
 13. 設定を適用します。
 - Matrox Parhelia および P750
 1. 同梱の Parhelia ケーブルでモニタが正しく接続されていることを確認します。ケーブルのセットアップ手順については、Matrox Parhelia のマニュアルまたはヘルプファイルを参照してください。
 2. Matrox の「Power Desk」セットアッププログラムを開きます。
 3. 「Multi Display Setup (マルチディスプレイの設定)」をクリックします。
 4. 設定するモニタの番号を選択します。
 5. 設定したモニタ構成と一致する設定プロファイルを選択します (詳細については、Matrox Parhelia のヘルプファイルを参照してください)。

サードパーティ製の互換ハードウェアに関する最新情報については、
<http://www.adobe.co.jp/products/premiere/dvhdwrdb.html> を参照してください。

関連情報

アドビ システムズ社の Web サイトにある Adobe Premiere Pro ページ (<http://www.adobe.co.jp/products/premiere/main.html>) を参照してください。チュートリアル、ユーザグループ、サードパーティプラグインのメーカー、アドビ システムズ社のカスタマーサポートなどにアクセスするためのリンクを紹介しています。

アドビ システムズ社は、プロフェッショナルクラスのデジタルビデオ作品を制作するための完全なソリューションを提供しています。<http://www.adobe.co.jp/motion/primers.html> でさらに詳しいリソースを参照できます。

また、<http://www.adobe.co.jp/support> では、アドビ システムズ社が無料で配布しているテクニカルニュースレターの購読もお申し込みいただけます。テクニカルニュースレターは電子メー

ルで送付され、Adobe Premiere Pro に関する技術的な情報やパッチなどの最新情報が掲載されています。

=====

法律上の注意

©2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Adobe および Adobe Premiere は、アドビ システムズ社の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。CineForm and CineForm Intermediate are either registered trademarks or trademarks of CineForm Inc. in the United States and/or other countries. Microsoft and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. Intel and Pentium 4 are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation or its subsidiaries in the U.S. and other countries. HDV is trademark of Sony Corporation and Victor Company of Japan, Ltd. All other trademarks are the property of their respective owners.

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.